

平成27年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(泉が丘地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成27年度 第10回
まちづくり懇談会《泉が丘地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《泉が丘地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成27年12月15日（火）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 泉が丘地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 27人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，東市民活動センター所長，土木管理課長，広報広聴課長

5 懇談内容

（1）地域代表あいさつ

泉が丘地区まちづくり推進協議会会長

（2）市長あいさつ

（3）地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	地域福祉，高齢者の生きがい社会参画について	交通政策課 保健福祉総務課 高齢福祉課

（4）総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ
市民の学ぶ意欲と豊かなところを育むために (1)生涯にわたる学習活動を促進する (2)生涯にわたるスポーツ活動を促進する (3)健全な青少年を育成する

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	高齢者の健康増進・健康寿命促進対策について	健康増進課 スポーツ振興課
2	地域活動の後継者育成について	みんなでまちづくり課
3	L R T問題について	L R T整備室 政策審議室 交通政策課 都市計画課
4	街路樹の剪定時期について	都市基盤保全センター
5	宇都宮市のグランドビジョンについて	政策審議室 財政課
6	L R Tについて	L R T整備室
7	公園の樹木剪定とパナソニック跡地利用について	公園管理課 地域政策室
8	栃木S Cへの支援について	観光交流課

(6) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 真壁 英敏氏

(7) 市長謝辞

■地域代表意見（要旨）

テーマ	地域福祉，高齢者の生きがい社会参画について
------------	------------------------------

泉が丘地区は，小・中学校の児童・生徒約 1,500 名を擁する子育て世代のまちである。こうした背景を受けて，当地区は以前から「愛と福祉」の泉が丘として，福祉活動に力を入れてきた。

そうした中，高齢者の数も年々増え続け，今年，75 歳以上の敬老会対象者は 1,298 名になった。従来から宇都宮市では，70 歳以上の高齢者には 1,000 円を支払うと 5,000 円相当のバスカードが支給されてきた。

しかし，私は民生委員として，日頃，高齢宅を訪問すると，実は，遠くに行くためのバスよりも，地域内にある病院などへ行く交通手段に困っている，という現状を耳にする。実際は，近くにいる親戚や知人・友人などの世話になっているようである。

こうした現状を踏まえて，次の 3 点の提案をする。

1 点目として，高齢者が，バス停まで歩くのが困難な場合やバス路線がない場所への外出にタクシーを利用することは多々ある。特にひとり暮らしの高齢者が近くの病院や買い物に行く際，バス乗車券よりもタクシー乗車券のほうが利用しやすいと思う。バス乗車券かタクシー乗車券のどちらかを選択して申請できる方法，例えばタクシー回数券 300 円券 17 枚分を本人負担額 1,000 円で交付されれば外出支援事業がより充実し，「優しさをはぐくむ福祉のまち 宇都宮」になると思うので，タクシー乗車券の給付を提案する。

2 点目として，この事業を推進するために，タクシー業者と提携して，近距離でも乗車拒否をしないなど，「福祉タクシー」としての位置づけを確立するように働きかけることを提案する。

3 点目として，泉が丘地区では現在，年 3 回程度，「泉が丘地区福祉会議」を開催し，民生委員，福祉協力員，自治会長，福祉協力員，市社協，地域包括支援センター等の参加のもと，地域福祉について情報交換，協議等を行っている。この会議に市の福祉関係部署も出席していただくよう要望する。

回答	所管課：交通政策課，保健福祉総務課，高齢福祉課
-----------	--------------------------------

【市長】

泉が丘地区においては，老人クラブ，ふれあい・いきいきサロンなどの活動の中で地域が主体となって健康づくりやボランティア活動など，様々な活動に取り組んでおり，毎回頭がさがる思いである。

高齢者外出支援事業であるが，移送等を目的とした生活支援とは異なり，外出することが消極的になる，70 歳以上の高齢者の社会参加の促進と生きがいづくりの推進を図るとともに，バスや地域内交通の利用促進に寄与することを目的に実施している。

引き続き，バスや地域内交通を利用した高齢者の外出のきっかけづくりや健康寿命

の延伸に繋げる事業として実施していく。

郊外部は公共交通が不便ということもあり、まず郊外部 13 地区にデマンドタクシーや定時定路型バスの地域内交通をつくり、現在、10 地区で運行が開始されている。郊外部の地域内交通の整備も残り 3 地区であり、全地区年間延べ約 5 万 5 千人の利用者のうち、8 割から 9 割は高齢者であり、通院や買い物など、日常生活の足として活用していただいている。

高齢化の進行に伴う日常生活での移動への不安が高まっているので、平成 26 年度から、泉が丘地区を含む市街地部において、地域まちづくり組織や連合自治会の代表者、交通事業者へのヒアリング調査や住民アンケート調査などを行い、生活交通確保策の検討を進めてきた。

これまでの検討結果であるが、市街地部における生活交通の確保にあたり、既存公共交通の運行状況や道路状況など、地域の状況に応じてバス路線の活用、改善また乗合タクシーの導入などを進めていくことが適切であると考えている。今年度中にはそれぞれの地域に合った交通手段の検討の進め方などを示したガイドラインを策定する予定である。

ガイドライン策定後には、地域説明会などを実施していくので、泉が丘地区においても、地域にふさわしい生活交通について一緒に協議をしていきたい。

次に、近距離利用の際、タクシー運転手に嫌な顔をされたり、乗車拒否をされることはあってはならないことである。タクシー事業者に対しても乗車拒否等しないように今までも指導をしているが、今回、このような御意見をいただいたので、改めて、タクシー事業者で構成する宇都宮タクシー事業者協議会を通じて、タクシー事業者には高齢者の移動など、福祉的な役割も担う交通である認識を持っていただき、近距離の乗車拒否などについて指導を徹底し、絶対にそういうことがないようにお願いをしていく。

最後に、少子高齢化の進展など、社会情勢の変化から地域における福祉ニーズが多様化、複雑化するなかで、地域関係者による地域福祉についての情報交換の場である「泉が丘地区福祉会議」は大変有効な取組であると認識しており、こういう組織が全地区にできれば本当に素晴らしいことだと思う。

高齢福祉分野では地域包括支援センターが中心となり、自治会、民生委員、地区社会福祉協議会の代表者などを委員として、高齢者福祉にかかる地域の課題等について話し合う地域会議には、必要に応じて市の職員も出席をさせていただいている。

市としても、地域関係者が地域福祉について情報交換等を行う取組をこれからも支援していく。

再質問(1)	地域福祉，高齢者の生きがい社会参画について
---------------	------------------------------

申請において、タクシー乗車券かバス乗車券かの選択はどうか。

回 答	所管課：高齢福祉課，交通政策課
------------	------------------------

【市長】

地域内の交通をこれから市街地部にも配置をしていきたいと考えているので、そこで、利用者のリクエストには答えていきたいと考えている。

再質問(2)	地域福祉，高齢者の生きがい社会参画について
---------------	------------------------------

いきいきバスカードではなく、いきいきタクシーカードができれば素晴らしいと思う。福岡などでは、最高額が所得によって違うようだが、1万2千円くらいまで補助が出るそうなので、宇都宮市もいきいきバスカードといきいきタクシーカードを来年度からでもすぐに発行できるのではないかと思う。

回 答	所管課：高齢福祉課，交通政策課
------------	------------------------

【市長】

いきいきバスカード事業について、バス事業者とかなり長い期間、調整をして実施できるようになった。タクシー事業者も多数あるので、参加する事業者と参加できない事業者が出てしまうので、まずは、市街地に地域内交通をつくとともに、いきいきバスカードの外出支援という考え方の中で、整理をして進めていきたい。

これから、1枚のICカードで公共交通に乗ることができるようにしていきたいと思う。その時には、70歳以上の方に1,000円を負担していただき、5,000円のバスカードを購入できるようになっているが、それもICカードに組み込めるようにしていきたいと考えている。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	市民の学ぶ意欲と豊かなこころを育むために (1)生涯にわたる学習活動を促進する (2)生涯にわたるスポーツ活動を促進する (3)健全な青少年を育成する
------------	--

総合計画とは、本市における「まちづくりの最も基本となる計画」であり、全市民の「5年後の市民の幸せ、100年後の都市の繁栄」に向けた道筋を示したもの

(1)生涯にわたる学習活動を促進する

本市は、少子・超高齢化や都市化・核家族化の進行により、家庭や地域の教育力や、防犯、地域福祉など、地域社会やまちづくりにおいて、新たな課題が生じているとと

もに、団塊世代の大量退職に伴う、まちづくりなどの担い手の増加など、地域における活動の活性化が期待されている状況である。

こうした中、市民一人一人が人間力を高めるとともに、それぞれが持つ豊富な知識や経験をより良い地域社会の創造につないでいくため、市民の学習成果を活かせる環境づくりや、人づくりを進めていくことが重要である。

泉が丘地区においても、地域コミュニティセンターにおいて、「子育てセミナー」や、生活課題や文化的な興味を取り上げた「ふれあいセミナー」など、様々な世代の方を対象とした生涯学習講座が開催されていると伺っている。今後も、様々な世代の方に受講いただきたい。

生涯にわたる学習活動を促進するには、このような講座を受講できる環境の醸成や、地域で活躍する人材の育成、指導者等の活動の活性化を図ることが必要である。

こうしたことから、「子どもから大人まで、市民の誰もが自分に合った学習の機会や場を得られるとともに、意欲をもって地域のための活動に取り組んでいます。」を望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は、「家庭教育支援の充実」、「宮っこステーション事業の推進」などである。宮っこステーションに関しては、小規模特認校を除く全小学校区に子どもの家を設置完了した。

主な施策指標は、「全生涯学習センターで開催される講座の延べ参加者数」の増加などである。

(2) 生涯にわたるスポーツ活動を促進する

本市の状況は、地域コミュニティの希薄化などに伴い、健康づくりや生きがいがづくり、地域における連帯感の醸成など、スポーツ活動の果たす役割がますます増大している状況である。

こうした中、スポーツ活動の多面的な効用を活かすため、市民の生涯にわたるスポーツ活動を促進することが重要である。

泉が丘地区においては、平成16年に総合型地域スポーツクラブである「友遊いずみクラブ」が設立され、これを契機に他の地区においても取組が進められ、現在では市内に8クラブが設立されている。「友遊いずみクラブ」では30以上の種目に約1,300名の方が参加しているなど、全国有数の地域スポーツクラブであり、健康づくり活動に対して積極的に取り組んでいると伺っている。他地域の模範となる取組であると考えており、感謝申し上げる。

それぞれの年齢や健康状態、技術、興味、目的などに応じて、幼児から高齢者まで、市民一人一人が生涯にわたってスポーツを楽しむことができる環境が重要だと考えている。

こうしたことから、「人材や団体、自然などの地域資源が活かされながら、市民それ

それぞれの目的に応じた自主的・継続的なスポーツ活動が活発化し、暮らしの中にスポーツがより深く浸透しています。」を望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は「地域スポーツクラブの育成、活動支援」、「スポーツ施設等の整備」などである。

主な施策指標は「20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ活動実施率」の増加などである。

(3) 健全な青少年を育成する

本市の状況としては、青少年を取り巻く環境が変化し、人間関係や地域社会とのつながりが希薄化している中、コミュニケーションや自立に不安を抱えている青少年の増加が社会問題となっている。

こうした中、将来の夢や希望を育みながら、社会の一員として健全な社会生活を営むとともに、積極的に社会参加・貢献する青少年を育成していくことが重要である。

本市においては、「宮っこフェスタ」や「宇都宮ジュニア未来議会」など、青少年が社会の中での責任や役割を自覚し、積極的な社会参加を促すための様々な取組を行っている。

泉が丘地区においては、子どもたちの自主活動を促進させ、地域の歴史や文化・自然に関する学習・発表の機会を提供する「少年ふるさと教室」が毎年3回開催されていると伺っている。青少年の交流機会の確保に御協力いただいていることに感謝申し上げます。

このような取組を通して、青少年が人間性や社会性を身に付け、たくましく成長できるよう、体験活動の促進や異世代交流の場の創出などに今後も取り組んでいく。

こうしたことから、「青少年が、さまざまな人とのかかわりの中で、成長段階に応じた社会性を身につけ、心身ともに健康に成長し、社会の一員として充実した生活を送っています。」を望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は、「青少年の自主活動の創出促進」、「青少年の居場所づくり事業の充実」、「青少年の相談機能の充実」などである。「青少年の居場所づくり事業の充実」であるが、地域や関係団体と連携し、身近な地域において青少年の居場所を提供しており、現在、市内に19箇所設置した。

主な施策指標は「地域などでの社会的な活動に取り組んでいる青年の割合」の増加などである。

■自由討議（要旨）

発言 1 高齢者の健康増進・健康寿命促進対策について

泉が丘地区の近くに宇都宮市立体育館があり、素晴らしい施設である。

しかし、トレーニングルームの利用料金が1回430円かかる。少し高額と思い、利用しにくい側面があると思う。

高齢者は筋力が衰え、それに伴い運動能力や活動範囲が低下していく。健康寿命を延ばすためにも、若い世代の利用の少ない平日の日中などを高齢者の利用に充て、利用料金も半額ないし無料にするなどの対策を講じてはいかがだろうか。

回 答	所管課：健康増進課，スポーツ振興課
------------	--------------------------

【市長】

泉が丘地区においては、「泉が丘地区まちづくり推進協議会」や「友遊いずみクラブ」、「泉が丘地区健康づくり推進員会」の皆様が緊密に連携し、地域の皆様が継続的に健康づくりに取り組めるよう、健康チェックを実施し、データの経年変化を見える化するなど、地域の健康づくりに積極的に取り組んでいる。大変素晴らしいことである。

健康寿命を延ばすことが、これからの社会の課題であるので、高齢者のスポーツ活動は必要になると思う。

市立体育館のトレーニングルームは年間2万人の利用があり、平日、祝祭日、午前・午後に関係なく全ての時間帯にまんべんなく利用されている状況である。よって、利用料金を引き下げることにより、利用者が増えてしまい、利用したい方が利用できなくなってしまうのではないかという考え方もある。

そこで市としては、公園に様々な児童遊具があるが、そこに健康遊具を設置して、高齢者に身近な公園で日頃から体を動かしていただくということで、泉が丘地区においても元今泉7丁目公園などに健康遊具を設置した。今後とも増やしていきたいのでぜひ活用していただきたい。

また、高齢者の方に気軽に取り組んでいただける「気軽にエンジョイMiy a運動」を作成した。家の中で気軽にできるスポーツなのでこのような運動もぜひ使っていただきたい。

発 言 2	地域活動の後継者育成について
--------------	-----------------------

地域コミュニティセンターを利用する年齢層は、日中時間の自由になる高齢者が多いようである。地域活動の後継者を育成していく上でも、若い世代、特に子育て世代の方々をコミュニティセンターに誘致したいと思っている。

そのための対策として、月1回ないし2~3か月に1回程度、未就園児を持つ母親に対して「母と子のためのコミュニティセンター開放日」を設け、子育て世代のお母さんと子どもにコミュニティセンターに来て、コミュニティセンターを知っていただき、読み聞かせや昔遊び、サークル紹介などを行って地域活動に親しんでいただきたいと

思っている。子育て世代へのセミナーはあると思うが、未就園児を持つ母親が気軽にコミュニティセンターを利用してほしい。

回 答	所管課：みんなでまちづくり課，子ども家庭課
------------	------------------------------

【市長】

地域コミュニティセンターについては、泉が丘地区まちづくり協議会に指定管理者として管理をしていただき感謝申し上げます。

子育て世代は最近、核家族化が進んでいるので、子育てに不安や疑問をお持ちの方がたくさんいる。本市では、「こんにちは赤ちゃん」事業という、赤ちゃんが産まれた家庭に対して、生後4か月以内に必ず家庭訪問を行い、育児の様子をうかがい、子育てのアドバイスをしている。

泉が丘地区の母と子のためのコミュニティセンター開放日のようなアイディアは素晴らしいことだと思うし、ほかのコミュニティセンターや地区市民センターへ情報として提供させていただく。

コミュニティセンターは「ひとづくり」と「まちづくり」の場なので、多くの方に関心をお持ちいただき、コミュニティセンターに足を運んでいただけるような事業は必要だと思う。そうしたアイディアをたくさんお持ちだと思うので、率先して行っていただき、自分達のまちは自分達でつくる、そういったことに興味を持つことや、自ら汗をかいていただけるような、きっかけづくりになればよいと思う。

発 言 3	L R T 問題について
--------------	---------------------

まず、高齢化社会の対応としてのL R Tについてであるが、L R Tで高齢者が通院や買い物ができるのか、どのように考えているかをお聞きしたい。

高齢者のためには、L R Tよりもミニバスを全域に限なく走らせる、予約型タクシーやデマンドタクシーを充実させる、さらにはワンコインでJ R宇都宮駅まで行けるようにバスの料金の補助を拡大させる施策のほうが高齢者には便利で優しいと思うがどのように考えているか。経費もL R Tよりもこのほうが安く済むのではないだろうか。

次に、渋滞解消について、工事期間中の渋滞対策はどのようにするのか伺いたい。平成28年度から駅東地区の工事に着工するそうだが、具体的に平成28年度のいつから工事に入るのか。そして、その時の交通規制や渋滞対策、駅東は片側2車線で途中から1車線になるが、工事期間中は大変な渋滞が予測されるので、見通しをお聞きしたい。

また、開通後は駅東口から国道新4号まで約4キロメートルあるが、道路の真ん中に上下2本のレーンと停留所が14箇所、片側7箇所になるので、両側4車線分く

らい使われることになる。市長は渋滞解消のためにLRTを建設すると言っているが、かえって渋滞がひどくなるのではないかと思うので、その見解と対策をお聞きする。

LRTの基軸としてネットワーク型コンパクトシティ形成を強調しているが、ネットワーク化するためには、検討委員会の報告では、東武駅前交差点、桜通り交差点に4千平方メートルか6千平方メートルのターミナルが必要とあるが、その用地買収の見通しや移転補償の見通しはついているのか伺いたい。それができないのなら、ネットワーク型コンパクトシティと言いながら、LRTとバスの連結ができないことになると思うが、その見解をお願いしたい。そして、都市計画の中で宇都宮市はベルモールやインターパークができ、また環状線ができて拡散型の都市になってきている。そういう許可をしておいて、本当に将来的にまちなか活性化を含めたネットワーク型コンパクトシティはできるのか伺う。

市民の合意だが、LRT導入は市民の合意が必要かと思うが、住民投票の要求、市民からの要望、議会提案の住民投票条例案を3度否決し、市民からのアンケートを取らないとのことだが、具体的にどのように市民の意思を確認し、合意を得るつもりなのか伺いたい。

最後に採算制と財政負担だが、需要見込は去年15,000人、今年は16,000人とのことだがその根拠を明確にしていきたい。駅東部だけで、LRT整備が約412億円とされているが、将来にわたり市民の負担になるのではないか。

回 答	所管課：LRT整備室，政策審議室，交通政策課，都市計画課，財政課
------------	---

【市長】

ネットワーク型コンパクトシティの形成であるが、南北方向の鉄道と東西方向のLRTを基軸とし、バスによる「幹線・支線公共交通」や、地域を面的にカバーする「地域内交通」が相互に連携した、階層性のある公共交通ネットワークを構築することにより、高齢者を含めた市民の誰もが自由に移動できるようになる。

現在、地域住民の買い物や通院など日常生活を支える移動手段を確保するために、地域を面的にカバーする地域内交通の導入や、生活バス路線の維持存続を図るため、赤字バス路線に対する補助を行っており、年間約1億円の補助をしている。LRTとこれらを効率的に連携させ、階層性のある公共交通ネットワークを構築することで、市民の誰もが移動しやすい交通環境の構築につながるものと考えており、その構築に向けては、高い輸送力と定時性を備え、また将来的な鉄道乗り入れなどの拡張性を有するLRTを基軸とした公共交通ネットワークの構築が不可欠である。

また、LRT整備にあわせて、バスネットワークの再編やトランジットセンター（乗り継ぎ施設）の整備、ICカードの導入やそれに伴う乗り継ぎ料金割引を検討していきたい。

渋滞対策について、ピーク時の交差点の混雑度合いを示す需要率の検証、さらには、

車一台ごとの動きを現実に近い形で検証できるミクロ交通シミュレーションも実施した。これらの検討結果をふまえ、道路管理者や交通管理者と協議を重ね、右折レーンの新設などの交差点改良や信号点灯サイクルの変更などを行うことで、LRT導入後において、交通の円滑化が確保されることが確認された。

施工中の交通への影響については、作業場の配備と施工の時間帯、周知方法の検討を行い、最小限となるよう取り組んでいく。

LRTとネットワーク型コンパクトシティについて、平成21年度の「新交通システム検討委員会報告」においては、JR宇都宮駅西側の交通結節点について、JR宇都宮駅西口、東武宇都宮駅周辺、桜通り十文字周辺の3箇所を想定している。

JR宇都宮駅西側におけるトランジットセンターの整備については、生活行動実態調査の結果などを踏まえながら、本市の総合的な交通体系の構築に向け、さらなる延伸の必要性を含めたLRTの整備区間、鉄道やバスとの連携、LRT導入後の自動車交通のあり方などについて検討する中で、改めて検討していく。

ネットワーク型コンパクトシティは、商業や業務、医療、金融などの高度な都市機能の集積と賑わいを創出する「都市拠点」と、日常生活を送るための機能を集積する郊外部の「地域拠点」などをちりばめながら進めていきたいと考えている。すべての地域が将来に渡って、維持・発展を続けるまちづくりを進めるものである。

市民の合意であるが、これまで、「オープンハウス」や「出前講座」、39地区連合自治会や沿線地域における説明会などを実施し、市民の皆様と協議をしながら、様々な質問や疑問に答えてきた。

私としても、まちづくり懇談会や各種座談会、講演会など、あらゆる機会をとらえ、市民の皆様にも説明をしてきた。これからもこの説明は続けていきたい。

また、住民投票の実施は市議会で否決されたが、LRTの整備については市議会と執行部との間で長年にわたり議論を積み重ねながら進めてきた。予算が必要な場合にはその都度、議決もしていただいた。

これからも、様々な情報等が出てくるので、その際は逐次、市民の皆様にも示し、御理解をいただいていく。

採算性と財政負担について、本市を含む7市7町の住民の皆様にも生活行動実態調査を行った。「どのような人が」、「どのような目的で」、「どこからどこへ」、「どのような交通手段で」移動したかなどの、一人一人の交通行動の特性を捉えた上で、科学的な手法である四段階推計法を用いてLRTの需要を推計し、その推計結果を基に採算を試算したところ、本市におけるLRT事業は採算が見込まれるという結論になった。

ただし、地域内交通やバス路線など、生活に必要なものや社会に必要なものはこれからもやっていきたい。もちろん、効率性や費用対効果を出さなければならない。民間ができないこと、民間だけではやれないことを行っていくことが行政の仕事だと思う。

最後に、優先整備区間の概算事業費、約400億円については、事業費の2分の1の国庫補助金を見込み、残りを県と市が負担をしていくが、一括支払いではなく、分割

で支払っていく。償還期間を20年とすると、1年間で最大13億円程度となり、これを、もし、県と市が折半することになれば、約6億円から7億円となる。本市の一般会計の予算は1,969億円であるので、7億円を支払って宇都宮市が破たんしてしまうかと言えば、皆様御理解をいただけたらと思う。

発言 4 街路樹の剪定時期について

泉が丘交番から藤井産業までの街路樹の剪定を10月中旬までに実施してほしい。11月の1か月間は大量の落ち葉を連日のように掃除しなければならず、沿道住民は疲れてしまい困っている。

都市基盤保全センターへも行き、お願いしたが、検討中のまま現在にいたっている。

剪定時期を早めることが出来ないなら、11月中に歩道の落ち葉の掃除は1週間に最低2回は実施してほしいとお願いしたが、これも結局空振りで終わっているので、剪定時期について伺う。

回答 所管課：都市基盤保全センター

【市長】

現在、宇都宮市には260の道路があり、街路樹が約1万6千本植えられている。宇都宮市内全域を一気に剪定をするのはなかなか難しく、11月頃から翌年の1月頃にかけて行うことになってしまう。

御指摘の場所については、なるべく木が衰えないように、強剪定ではなく、うまく剪定をして葉が落ちる前になるべく行おうとしているのだが、今年だけはほかの全体の計画があり、業者との契約も決まってしまうので、来年は11月に行えるようにする。

発言 5 宇都宮市のグランドビジョンについて

グランドビジョンについて聞かせていただきたい。これはLRTにも絡んでくる。

8年前に亡くなった母親が、生前、LRTの新聞記事を見て、「こんな素晴らしい電車が走るなら、それまで長生きしたい。」と話していた。高齢者がこうした施策を見て、生き甲斐を感じる施策は素晴らしいと感じていた。しかし、現実を考えると、現在65歳以上の年金受給者は64歳以下の現役世代3人で1人が支えることになっている。これから15年後は2人で1人を支える時代になり、さらに15年後には1人が1人を支える時代に入ってくる。

また、最近、宇都宮市の財政白書が出た。この財政白書を見ると、支出は1,900億

円となっているが、市税の収入は約 1,000 億円余である。足りない分は、県や国からもらっているものや市債の発行で補っている。

金額としては毎年約 100 億円だが、サラリーマンに例えると、1,000 万円の年収なのに毎年 1,900 万円使い、親から数百万円もらい、それでも足りなくて銀行から借りているという生活をしているのと同じだと思う。

中核市の中で第 2 位とか第 3 位かもしれないが、我々市民の目から見ると、そうしたものが全然良いとは思えない。やはり自主財源の中で賄えるような体力を作っていかなければならないと思う。

LRTの問題に関しても、市長は、身の丈にあっているという話しをしているが、本当に身の丈にあっているのかどうか、これから少子化で税収も少なくなっていくのか、本当にこうした大きな事業、しかも 400 億円で済むかどうか分からない、JR 宇都宮駅西口を含めると 1,000 億円くらいかかるのではないかという話もある。

また、そのほかにも様々な問題はある。当然、宇都宮の中心市街地活性化ということで宮まつりを行っているが、道路が 3 車線から 1 車線になると宮まつりも縮小するのではないかと、クリテリウムは競技ができるのかといった問題をたくさん抱えていると思う。

こうした問題に関して、メリット、デメリットを市民にきちんと伝える必要があるのではないかと考えている。

市長はネットワーク型コンパクトシティの話をするが、ネットワーク型コンパクトシティを具体的にどこにどういう形でつくり、どのようにネットワークで結ぶのかという具体的な話が我々にあれば、「なるほど、こんな立派なまちになるのだ。」というイメージができるが、現在は、絵に描いた餅のようになっているので、市民として納得できていない状況になっている。

今、若い人達は将来に希望が持てなくなっていると思う。市長はどのようなまちづくりをこれからしていきたいのか、若い人達が将来に希望を持てるまちをどのようにつくっていくのか、ブランドビジョンというものがあれば聞かせたい。

回 答	所管課：政策審議室，財政課
------------	----------------------

【市長】

これから少子高齢化になるなかで、今まで社会をつくって来た、本当に尊敬すべき方々である高齢者の方々が病気にならず、寝たきりにならず、そして、この社会をつくってきた苦勞が報われるような社会をつくらなければならないと思う。そして、支える側である現役世代にとって、支え甲斐のある社会をつくっていかなければならない。支えるためにも頑張ろうと思える社会、そして子ども達が大きな夢を持つことができ、その夢が実現できる社会をつくっていききたいと思う。

財政の話があったが、市は国、県からもお金をいただいている。これは当然のことである。皆様の税金は宇都宮市だけに払っている訳ではない。国にも納税していただ

いているので、我々は少しでも大きな声を出して、少しでも余計にお金をいただいて、皆様に還元したいと思っているので、これは当然のことだと思う。

そして、宇都宮市の自主財源は、約 1,200 億円ある。この金額の中で社会をつくっていくことはできる。借金をしなくても宇都宮市の運営はできる。しかしそれは公平性が欠ける。例えば、道路や橋をつくることは、皆様が納めていただいた税金だけでできる。30 年も 50 年も維持できる橋を皆様が負担するのは不公平だと思う。

そうした理由から、行政はわざわざ借金をして、将来にわたり利用する人達にも負担をしていただき、皆で支えあう社会をつくるために、負債をあえてするのである。こうして、社会を持続していくのが地方自治体の行政である。

また、ネットワーク型コンパクトシティは、これから立地適正化計画を策定し、都市機能誘導区域や居住誘導区域をつくり、宇都宮全体がこれからも持続できる都市にしていく。各地区には様々なカラー、つまり、昔の合併の経緯や歴史や住民の皆様が育んできた文化があると思う。それらを活かしながら、各地域が、それぞれの強みを活かして、持続できるまちをつくるためにネットワーク型コンパクトシティを形成する。公共交通は要になる。公共交通全体で網を掛け、移動することができるまちづくりをこれから皆様と一緒にやっていきたい。

もちろん、誘導区域や都市拠点も皆様に十分説明をして、理解をしていただきながら進めていくので、御理解をいただきたい。

宇都宮はこれからどんな状況になっても、宇都宮が生き残れる、全国で 5 本の指に入り、これからも持続できる、住んでいる方々も企業も安心して生活ができるまちが、私が考えるビジョンである。

発言 6 LRTについて

LRTには賛成である。私の実家は熊本市あるが、市電が走っており、非常に便利であることは私自身、身にしみて分かっている。道路の幅を広げるために工事するわけだが、交通渋滞について対策をして工事を行うとのことだが、宇都宮でやってよかったと言われるように知恵を出して事業を進めていただきたい。知恵は市民から募集すればよいと思う。

朝夕、JR宇都宮駅の西側の通りを通ると、配達の手などが停車している。これを何とかしないと非常にみっともない。LRTに関しても道路が狭くなると解決しなければならぬ問題だと思う。難しい問題だと思うが、策があるのであれば回答いただきたい。

回答 所管課：LRT整備室

【市長】

熊本も大変参考になっており、路面電車やバス路線を熊本市交通局などが上手く管理をして改良を行っている状況である。市民にとっては、欠かすことのできない交通手段の一つになっている。我々も大いに参考にさせていただいており、視察も行ってきた。

現在、多くの都市がLRT導入に向けて名乗りを上げている。その中で、最も進んでいるのが宇都宮と言われており、全く軌道が無いところに、一からLRTを整備し、距離も長いということで、全国から注目されており、様々な都市からの視察があり、様々な都市に呼ばれて講演をしている。

御意見のとおり、本当に生半可な気持ちで行うことはできないし、宇都宮が今、全国のモデルと言われているので、失敗がないように行っていきたいと考えている。

交通渋滞が起こらないような施策について、交通事業者、交通管理者と綿密に連携を取りながら、これまでも相当の回数の協議を行ってきた。

採算については、需要予測に基づきLRTの利用者数がわかってきて、採算性の確保の見通しが明確に出てきた。また、LRTが通った場合の交通シミュレーションにおいても、渋滞がひどくならないとの検討結果となった。

そして、市民からの知恵という御意見をいただいた。LRTの車両の色、ネーミング、停留所名や停留所の色なども全て市民の皆様からアイデアを募りたいと考えている。その際は、またお力添えをいただきたい。

発言 7 公園の樹木剪定とパナソニック跡地利用について

1点目は、先程の街路樹の剪定について、私の地区の公園も剪定をしていただけないので、何年かに1度、自分で剪定をしている。

ただ、そこで気が付いたのは、剪定する時、上の方を剪定しているので、剪定した下がこぶになってしまい、こぶから枝がたくさん生えてくる。何年間かは少し短くなってしまいが、その下を切ると後の剪定が楽になると思うので検討していただけないか。

2点目は、JRは小金井止まりがあるそうだ。宇都宮は車両基地が少ないので、現在、新しく岡本を新都市計画で何か行おうとしているので、パナソニック跡地が空き地になっているのであの辺に車両基地をつくったらどうか。市で買うとか買わないとか聞いているので、あの辺りの広い場所を上手く利用して新しい産業をつくったら面白いと感じた。

回答 所管課：公園管理課，地域政策室

【市長】

1点目について、公園の管理について、樹木が高くならないように上の方を摘めて

いるのだと思う。それが下まで行き届かないので、下のほうがこぶ状になっているのだと思う。早速現場を見させていただき、対応していきたいと思うので、懇談会終了後、場所を教えていただき、もしお時間があれば、立ち会っていただけるとありがたい。

2点目について、小金井止まりについては、せめて宇都宮止まりにさせていただければ、宇都宮にとっても栃木県全体にとってもプラスになるという御指摘をいただく。そのことをJRに話すと、なかなか難しいという答えが返ってくるというところまでは伺っているが、宇都宮市として、御指摘をいただいたので、車両基地について、今度JR宇都宮駅の方と会うので、このことを話すとともに、その結果について御連絡をする。

また、パナソニック跡地について、去年頃から、宇都宮に進出したいという企業からの問い合わせが数多くある。なかには具体的にいつまでに工場あるいは研究所を宇都宮につくりたいという声もあるが、工業団地の中には立地できる場所がほとんどなく、本市しても何とかしなければならぬ。また、「既存の工場が古くなったので新しいところで営業や操業をしながら建て替えを行い、1日も休業することなく新しい工場で操業したい」という要望や「現在の場所が手狭になったので広いところに移転したい」など様々な要望がある。こうした声に応えていくために、新たに工業団地を造成するのは難しいが、現在ある工業団地を活用していくということで、市も乗り出しているところである。

発言8 栃木SCへの支援について

栃木SCの問題であるが、栃木SCがJ3になってしまい、今後、活躍が期待できると思うが、宇都宮市としてはどのような対応をするのか、市長の考えを聞かせていただきたい。

回答 所管課：観光交流課

【市長】

宇都宮には栃木SCのほかに2つプロスポーツチームがあるが、この2つのプロスポーツチームへ栃木SC同様に市が支援をしている。ところが、栃木SCが成績不振ということでJ3に落ちてしまったが、来シーズンに向けた具体的な経営方針・戦略などを伺ったうえで、これからも支援をしていきたいと思っている。

しかし、皆様の税金を使わせていただく支援であるので、市民の皆様や市民の代表である議会に御納得いただけるかたちでの支援をしていく。